

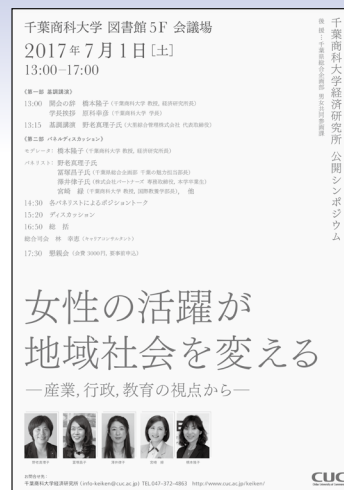
2017年7月1日

千葉商科大学経済研究所 公開シンポジウム

あなた
女性の活躍が地域社会を変える
— 産業，行政，教育の視点から —

キャリアコンサルタント、GCDF-Japan キャリアカウンセラー
(シンポジウム総司会)

林 幸恵
HAYASHI Sachie



7月1日、図書館5階会議場に本学ゆかりの各界女性リーダー、女子学生はじめ120名の参加者が集い、「女性の活躍が地域社会を変える」と題したシンポジウムを4時間に亘って開催した。しかし、このテーマは女性にフォーカスしていたため、ディスカッションでパネリストから、女性に限定せず“あなた”とか“私たち”の方がふさわしいのではないかと の提言に一同賛同し、「あなたの活躍が地域社会を変える」に変更した。

■基調講演「地域とともに ～ 仕事を通して学んだこと」
「大里綜合管理株式会社」代表取締役社長・野老真理子氏^{ところ}
仕事の第一歩は、人の思いに《気づく》こと

野老氏は、千葉県大網白里市で不動産取引・建築請負・管理に携わる傍ら、社員とともに300を超える地域活動に関わっており、そこでの《気づき》がアイディアになり、アイディアこそ43年間黒字経営の源泉であると事例を交えて話した。フクシマの原発事故に学び、震災前年比80%の節電を可能にしたというアイディアの数々に、会場はどよめきと称賛に包まれた。例えば夏、冷房は運転しない。床をノースリッパで歩く心地よさ。来客の「おもてなし」は冷たいおしぼり＆ネクタイ、省エネ扇風機。冬は視覚効果を狙い、社員全員が赤のカーディガンを着用し、椅子には赤のブランケット。1時間ごとに、ラジオ体操で身体を温める。これこそ自家発電ならぬ「自ら発電」で、暖房費節約に加え、社員の健康にも役立つとはほ笑んだ。6年前の東日本大震災では、信号の消えた交差点に、社員が自発的に立ち、交通整理を行った。非常時に何ができるか考え、地域と共にいい街を創りたいと語った。

■パネルディスカッション
男性も welcome「あなたの活躍が地域社会を変える」

パネリストは野老氏に加え、「千葉県総合企画部」千葉の魅力担当部長・富塚昌子氏、本学卒業生で「株式会社パートナーズ」専務取締役・澤井律子氏、本学国際教養学部長・宮崎緑教授が、女子学生2名（国際教養学部3年・中嶋千紬さん、商経学部商学科4年・小川碧さん）と共に参加し、モデレーターは経済研究所長・橋本隆子教授が務めた。

富塚氏は行政の立場から、「千葉は魅力がいっぱい。成田国際空港、東京湾アクアライン、おいしい水産物や野菜。だから千葉を離れないでね」とアンバサダーの本領を発揮。澤井氏は学生時代、女子軟式野球部で活躍し、会場には後輩たちも駆けつけた。卒業から15年を経て、今や気仙沼市で太陽光発電システムを主とした再生可能エネルギー販売施工会社の経営者だ。目標は地域雇用の創出と国内外で活躍できる社員教育だと、しっかりと将来を見据えていた。宮崎教授は、仕事役割は男女別ではなく「適材適所」だ。マズローの「欲求5段階説」の最上段は自己実現であって

女性実現ではない。学生が自己実現に向かうプログラムの一環で、国際教養学部の新入生は入学式直後に「海外フレッシュマンキャンプ」に出発し、体験を重ねて成長する。その中でも成長めざましい学生として、中嶋さんを紹介した。中嶋さんは「フレッシュマンキャンプの上海で固定観念が崩れ、カナダやスコットランドに短期留学するたびに新しい発見があった。将来はグローバル人材として日本と世界の架け橋になり、地球のどこかで活躍していきたい」と抱負を語った。続いて、簿記等の資格取得で定評ある「瑞穂会」で成果を挙げた学生として紹介された小川さんは、キャリアプランは地域密着型の金融に就職し、地域に貢献すること。それには中小企業診断士の資格も取得したい。好きな言葉は“心が変われば、運命が変わる”。心が変わるできごとを大事にしたいと語った。モデレーターの橋本所長は、この場でテーマをよりふさわしく変更できたように、“気づき”が提案につながり、結果的に社会を変えていく力になる。大学としては、学生がチャンスをつかむサポートに努めたいと語った。

冒頭の学長挨拶から総括まで、終始愉快そうに微笑み、時にコメントしていた原科学長は「パネリストにすばらしい女性がそろい、本学にしっかりした学生や卒業生がいることがわかってうれしい。野老さんは人の言うことにとらわれず、直感を活かして、模範的なCSRを実行している。ただ、今回のパネリストには専業主婦がいないが、専業主婦が頑張ると、地域社会が変わるのではないかな。本学も身近な市川から千葉、全国へと連携を広げたい。みなさん、共にやっていきましょうと結んだ。



身を乗り出す参加者／一体感で盛り上がった会場

終了後は、本学「The University DINING」で、ビュッフェスタイルの懇親会が開催され、パネリストも参加者もグラス片手に語り合い、シンポジウムの余韻を楽しんだ。

■アンケート集計から

パネリストに共感するも、テーマの深掘りに不足感か

100名を超える参加者中、アンケート回答者は57名（男性31、女性26）。年代では50代が最も多く16名、次いで40代13名、20代9名であった。

自由記述欄に記載されたコメントの一端を紹介する。

- 終始楽しく、多くを共感しながら参加しました。日々仕事や育児で悩んでいます。前に進めるディスカッションでした。今後も野老さんのようにアイデアを実行に移している方々の実施方法や、課題の解決方法などを拝聴したいです。（30代女性：神奈川県内）
- 起業準備中なのですが、すべてがリンクして自身につながりました。今後、同じようなテーマで色違いの話題を聞きたい。（50代女性：市川市内）
- 実際に社会で活躍されている女性からの貴重な話を聞けて勉強になりました。質問者の論点がずれていくのが気になりました。もっと外部からいらした方の話が聞きたかった。（20歳未満女性：千葉県内）ほか。
- 2人の学生が、大人の中でも意見をしっかり言えることに感心しました。テーマは「女性～変える」より「～つくる」でも良いかな。（50代女性：千葉県内）
- 野老さんの話は個性的で経験豊かで、楽しかった。従業員の方もいらして、会社の姿がよく見えたとこもよかったと思います。（50代男性：千葉県内）
- 既成概念に囚われない経営者と、役人のコントラストが面白かった。（40代男性：市川市内）
- テーマに対する深掘り（ディスカッション）がもの足りなかった。女性の能力と女性としての未来の仕事について、もう少し侃々諤々話し合うことを期待していた。（70代以上男性：市川市内）
- 野老さんの話で「考えず、直感で」とは、実は女性的とも言えるかもしれません。（30代男性：千葉県内）
- 以上、アンケートの一端を紹介しながら、女性のエネルギーと男性の期待に満ちたシンポジウムが、真剣かつ和やかに、熱気を帯びて終始したことを報告する。